

「科研費改革説明会～知のブレークスルーを目指して～」に関する報告 資料2-1

東日本会場(①)及び西日本会場(②)において、科研費改革説明会を文部科学省と日本学術振興会が合同で実施しました。本説明会には、東西合わせて約1,600人(研究者が過半を占める)の方に御参加いただき、科研費改革の進捗状況や科研費をめぐる状況等について説明を行いました。

1. 日 時 ①平成29年6月 8日 (木) 13:30～16:00
②平成29年6月15日 (木) 13:30～16:00
2. 場 所 ①東京大学(本郷キャンパス 安田講堂)
②関西学院大学(西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂)
3. 実施内容
13:30～ 挨拶
①盛山 和夫 独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター副所長
②西村 いくこ 独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター副所長

13:40～ 科研費をめぐる最近の状況について
①鈴木 敏之 文部科学省研究振興局学術研究助成課長
②石田 雄三 文部科学省研究振興局学術研究助成課企画室長

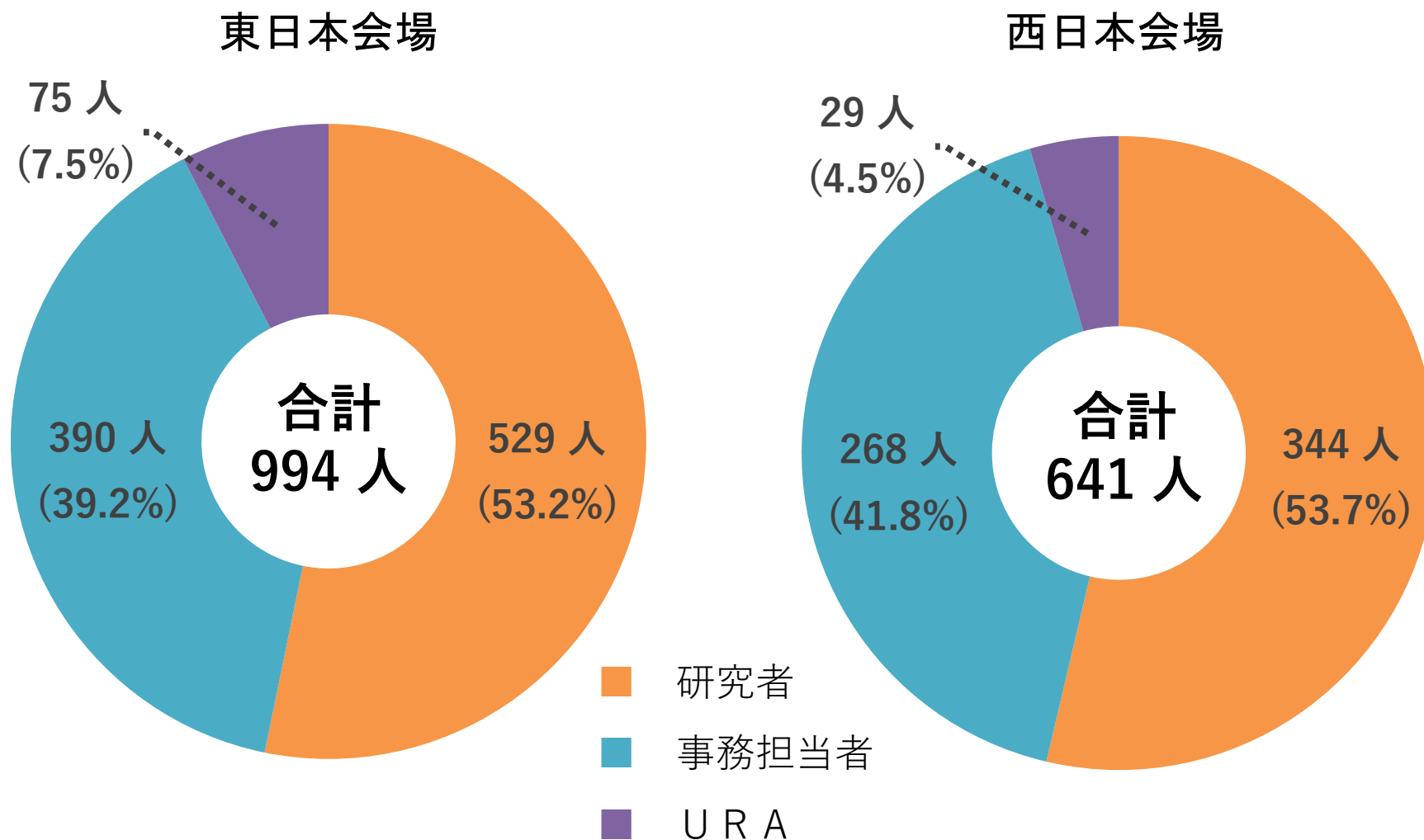
14:20～ 「科研費審査システム改革2018」について
①山本 智 独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員
②永原 裕子 独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター副所長

15:20～ 質疑応答
(①登壇者)
・山本 智 独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員
・鈴木 敏之 文部科学省研究振興局学術研究助成課長
・長澤 公洋 独立行政法人日本学術振興会研究事業部長
(②登壇者)
・永原 裕子 独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター副所長
・石田 雄三 文部科学省研究振興局学術研究助成課企画室長
・大鷲 正和 独立行政法人日本学術振興会研究事業部研究助成企画課長

※説明会の映像(質疑応答を除く)を当日撮影を行い、資料・映像等については6月末頃までに、文部科学省HPIに掲載する予定。

「科研費改革説明会～知のブレークスルーを目指して～」 参加者

【職種別内訳】



「科研費改革説明会」 質問骨子

1. 審査区分に関すること

- Q1 科研費改革における審査区分表の見直しの意図は何か。例えば、従来出ていなかった研究分野の応募を期待しているのか、それとも従来不採択となっていた課題を採択するためなのか。
- Q2 小区分に内容の例が付されているが、それに沿った形で審査委員が選ばれることになるのか。
- Q3 大区分、中区分に応募した場合、小区分の情報(応募者の細かい分野)は含まれないのか。
- Q4 他分野との融合により、応募課題が複数にわたる中区分に跨がるような場合、どの中区分に応募したらよいのか。また、基盤研究(A)クラスで分野融合に考慮した区分を設ける予定はあるか。

2. 審査方式に関すること

- Q5 平成29年度科研費では挑戦的研究で総合審査が行われたと理解。その結果を踏まえて応募者が工夫をするポイントなどはあるか。

3. 研究計画調書に関すること

- Q6 罫線はなくなるのか。
- Q7 基盤研究種目の検討イメージの掲載があるが、各欄は、挑戦的研究の調書を拡充したということなのか。
- Q8 平成30年度科研費の応募から、研究業績欄はリサーチマップと連携することとなるのか。

4. 若手研究に関すること

- Q9 若手研究の応募要件について、起算日などの詳細について教えてほしい。
- Q10 若手研究の応募要件を博士号取得後8年未満の者に変更することについて、修士課程を修了して現在博士を取得中の人や、学部卒でその後20年以上実務を行って現在修士を取得中の人は若手研究の応募要件を満たすのか。
- Q11 若手研究の応募要件の見直しによって、40歳以上でも応募できることになるのか。
- Q12 博士号を取得する以前に基盤研究で採択されていても応募できるのか。
- Q13 若手研究の応募要件が年齢制限から博士取得後8年間に変わったことを鑑みると、事実上応募できる期間が短くなり、若手に冷たくなったのではないか。
- Q14 若手研究の応募要件が変わるが、社会人経験を経てから大学で研究を始める者もあり、学士、修士の者が多い。そのような者はどこに応募すればよいか。
- Q15 科研費改革の進展の冊子の中に、若手研究(A)に採択されている方々は基盤研究(B)に応募するような図が示されているが、若手研究(A)は基盤研究(B)に移行するのか。
- Q16 若手研究の研究組織は1人で応募をするが、基盤研究(B)は組織的に応募をすることも可能。若手研究者の応募の仕方に何かルールを設けるのか。
- Q17 若手研究(A)を無くした理由について、基盤研究(B)で十分戦えるためと説明を受けたが、基盤研究(B)で採択されず、基盤研究(C)の応募に戻る人を見てきた。基盤研究(B)において、年齢で若手研究者を採択する部分を確保することを考えているのか。
- Q18 基盤研究(B)で応募する際、若手研究者は業績欄が埋められない。業績の見え方が違うので、審査の際に若手は不利になるのではないか。

5. その他

- Q19 配分方式に変更はあるか。
- Q20 審査区分の改革に伴う審査委員に対する審査の訓練やプログラムを用意しているのか。
- Q21 審査委員を評価する仕組みはどうなっているのか。
- Q22 基盤研究(A)、(B)の海外学術調査はどうなるのか。
- Q23 基礎科学TFの報告書を見ると採択率を現状の26%から30%まで上げると言うことだが、その方策は。
- Q24 小区分の審査では、小区分毎に採択があることは保証されるのか。
- Q25 挑戦的研究の重複制限は維持されるのか。
- Q26 グローバルチャレンジファンドは具体的にどのようなものか。海外のグラントなどを見ても、年齢制限で35歳までのものが多く、臨床などを経ると応募出来ないものが多い。